

## 24-8 カムイユカラ

「ポンオキクルミ ヤイエイソイタク (ココクンパイェヘー  
キント)」

小さいオキクルミが語った

語り：黒川てしめ

サケヘ V=ココクンパイェヘーキント  
V=kokokupayehekinto

V イレス サポ 育ての姉が  
V iresu sapo

V イレシパ キワ 私を育てて  
V i=respa ki wa

V オカアニケ いると  
V oka=an h\_ike

V ヘムトマニ ワノ このごろ  
V hemtomani wano

V ウ ワッカ ク ナイ 水を飲む沢  
V u wakka ku nay

V ウ シンプイ オツ タ 湧水のところで  
V u sinpuy or\_ ta

エンカ タ 上に  
enka ta

V ポロ スンク V poro sunku	大きいエゾマツの木の
V シニシ コトロ V sinis kotor	高天の真ん中に
V エウシ カネ ヘキ ヘ…… V eusi kane heki he…	届く程に
V ヘトウク ワ アン V hetuku wa an	生えていた。
V ウ オロワノ V u orowano	それから
V ネワアンペ V newaanpe	それは
V エネ イキパ ヒ V ene ikipa hi	このようであった
V ウッシウ ウタラ V ussiw utar	召使たちが
V ワッカタ ワ アラキ V wakkata wa arki	水を汲んできた。
V エヌネ キ ワ V enune ki wa	そうして
V アパサム ロシキ コロ V apasam rosiki kor	戸口のそばに立てると
V スワヌ チカブ V suwanu cikap	円をかきながら舞おりの鳥が

V ラヌム コンナ V ran h_um konna	下りる音が
V シウシワツキ V siwsiwatki	びゅうびゅうと鳴った
V ポロ フリ V poro huri	大きい怪鳥 <sup>[1]</sup>
V カネ フリ V kane huri	金の怪鳥が
V ウイナ キワ V uyna ki wa	(召使いを) さらって
V スンク カタ V sunku ka ta	エゾマツの上で
イリシパ イペ irispa ipe	むしり食い
イトクパ イペ itokpa ipe	つつき食い
V キ コロ オカ V ki kor oka	していた
V ウ キ ロキネ V u ki rok h_ine	そうしていて
タネ アナクネ tane anakne	今は
V ウッシウ ウタリ コオケレ V ussiw utari kookere	召使もいなくなった

V シネ アンペ タ V sine anpe ta	ある日
イレス サポ iresu sapo	育ての姉が
V エネ イタキ V ene itak h_i	このように言った
V 「イタカン チキ V "itak=an ciki	「私が話をするから
アレシパ ピト a=respa pito	私が育てた神よ
ウオンネレ ヤン uonnere yan	よく聞きなさい
V テエタ カネ V teeta kane	昔
V ニソシッチウイ V nisositciwi	空が大地に突き刺ささるところの
V イマカケ タ カムイ V imakake ta kamuy	そのまた向こうの神
ウエンカムイ トウミ wenkamuy tumi	悪い神の戦いに、
カムイ エオナ kamuy e=ona	神なるお前の父が
V コホプニ ワ V kohopuni wa	旅立ち

V エアニ パテク V eani patek	お前だけ
エアン キ キ コロ e=an ki ki kor	いながら
V オカ オロワノ V oka orowano	いて、それから
V パイエ ワ イサム V paye wa isam	行ってしまった
V エアニ パテク V eani patek	お前だけ
エアン キ キ コロ e=an ki ki kor	いながら
V ウ キ ルウエ ネ ワ V u ki ruwe ne wa	すごしてたのであって
V ネア カムイ エウヌ V nea kamuy e=unu	その神なるお前の母は
V ウ コン ロルンペ V u kor_ rorunpe	自らの戦いが
ウ ユプケ アイネ u yupke ayne	激しくなるうち
V ウ ライ ワ イシ V u ray wa is	死んで
アロンヌ ルウエ ネ a=ronnu ruwe ne	殺されたのだ

V ネ ヒ オロ(?) オロ タ V ne hi oro(?) oro ta	であること、そこで
V カント リ ウン クル V kanto ri un kur	天の高所の神
V ウ コツ トウレシ V u kor_ tures	の妹が
V イパンネ ヒケ V ip an=ne hike	私であって
V アシヌマ パクノ V asinuma panko	私ほど
エアシリ イヨマプ easir iomap	私こそが慈しむ
クニ プ アネ ル イサム kuni p a=ne ru isam	べきものであって、いない
キ クニ プ アネ ルウエ ネ ki kuni p a=ne ruwe ne	ほどの者であって <sup>[2]</sup>
V エヌネ ヒネ V enune hine	そういうことで
V ラナン ワ V ran=an wa	私が天下って
アエレス クナク a=e=resu kunak	お前を育てようと
V アシヌマ ネ ヤク エアシリ V asinuma ne yak easir	私なればこそ

V アイオトウワシ V a=i=otuwasi	信頼されて
V ウ ラナン キ ワ V u ran=an ki wa	私が下りて
アエレス ロク ペ a=e=resu rok pe	お前を育てていたが
V エアン カトウフ V e=an katuhu	お前がいる有様を
ネ ロク ウェンカムイ ne rok wenkamuy	例の悪神
アラ ウェンカムイ ar wenkamuy	本当に悪い神が
V オカケヘ タ V okakehe ta	(両親が死んだ) 後に
V オカイ プ キ クニプ V okay p ki kunip	いることを
エラモカ eramoka	知ったのだ
V ヤユウエカラ ワ V yayuwekar wa	自らXXXして
V オカ ルウエ ネ V oka ruwe ne	いるのだ
V ウ キ ロキネ V u ki rok h_ine	そうしていて

V アシヌマ アナク

私は

V asinuma anak

ラヤナツカ

死のうとも

ray=an yakka

トゥヤナツカ

切れようとも

tuy=an yakka

V ウ シクヌ クニ プ

生き返るべきものが

V u siknu kuni p

V アネ プ ネ クス

私であるものだから

V a=ne p ne kusu

エアニ アナク

お前は

eani anak

V ウ カムイ エネ ナ

神であるぞ

V u kamuy e=ne na

V エライケ ヤクネ

お前が殺されたならば

V e=rayke yakne

オナ ルウオカ

父のあと

ona ruwoka

ウヌ ルウオカ

母のあと

unu ruwoka

エタムエオマレ

が途絶える

etam'eomare

V ウ キ プ ネ キ ナ

ことになるぞ

V u ki p ne ki na

ネウンポカ エキ プ ネ ナ  
neunpoka e=ki p ne na

どうかしなさい

V セコリタケ コロ  
V sekor itak kor

と言いながら

V  
V

(ここから散文)

オロワノ オラ  
orowano ora

それから

ライアナッカ  
ray=an y\_akka

死のうとも

トゥイアナッカ  
tuy=an y\_akka

切れようとも

シクヌ クニ プ  
siknu kuni p

生き返るべき

アシヌマ アナク  
asinuma anak

私は

ヤイカッチピ エアシカイ ペ  
yaykatcipi easkay pe

復活できるものが

アネ ナ  
a=ne na

私なのだ。

ネウンポカ エキ ワ  
neunpoka e=ki wa

なんとかして

エシクヌ プ ネ ナ セコロ  
e=siknu p ne na sekor

生きるのだ、と

アコロ サポ  
a=kor sapo

わたしの姉は

ハウエアン コロ  
hawean kor

いいながら

ウ コント  
u konto

今度

ハヨク クニ  
hayok kuni

武装する様

シユク クニ  
siyuk kuni

身支度をする様を

オモンモモ  
omommomo

詳しく語る

ニアトウシ ウキネ  
niatus uk h\_inie

手桶を取って

ワッカタ ヒネ  
wakkata hine

水汲みをして

エキネ チセ オロ ウ  
ek h\_inie cise or un

来て、家の所へ

ナシ<sup>[3]</sup> アクス スイ ネア  
asi akusu suy nea

立てると、またあの

チカプ ラン フム コンナ  
cikap ran hum konna

鳥が下りる音が

シウシワツキ オラノ  
siwsiwatki orano

びゅうびゅうと鳴る

アコロ サポ  
a=kor sapo

私の姉は

ユプケタムクル  
yupketamkur

激しい太刀筋を

コテレケレ  
koterkere

走らせた

(ここから韻文)

V ウ オルン  
V u or un

そこへ

V ウ クンネ レレコ  
V u kunne rerko

夜三日間

V ウ トカプ レレコ  
V u tokap rerko

昼三日間

V ネ イワン レレコ  
V ne iwan rerko

その六日間

V ウ ネ キ キ コロ  
V u ne ki ki kor

そうしていると

イマカケ タ  
imakake ta

そのあと

V アコロ サポ  
V a=kor sapo

私の姉の

イノトウ オロケ  
inotu orke

魂が

V ウ アラパ フミ  
V u arpa humi

飛び去る音が

トゥリミムセ  
turimimse

鳴り響いた

V イルシカ ケウトウム  
V iruska kewtum

怒りの気持ちが

アヤイコロパレ  
a=yaykorpore

わきおこった

V オロヤチキ  
V oroyaciki

はからずも

ウヌ ネ マヌ プ  
unu ne manu p

母というもの

オナ ネ マヌ プ  
ona ne manu p

父というものを

アコラアン ペ  
a=kor aan pe

私が持っていたのに

V ハウケ カシパ  
V hawke kaspā

私があまりにも頼りなく

ウエンノ カシパ  
wennenno kaspā

あまりに稚拙で

エキ ハウエ アン  
e=ki hawe an

あったということかと

V ヤイヌアン クス  
V yaynu=an kusu

私は思うので

V ハヨカン クニ  
V hayok=an kuni

私が武装する様子を

アノモンモモ  
an=omommomo

詳しく述べる

V ナヨッ タ ラナン ワ  
V nay or\_ ta ran=an wa

沢に降りて

ワッカタアン イネ チセ  
wakkata=an h\_ine cise

水を汲み、家

オルン アアシ アクス  
or un a=asi akusu

のそばへ立てると

V スイ スワヌ チカプ  
V suy suwanu cikap

再び円をかきながら舞い降りる鳥が

ラヌム コンナ  
ran h\_um konna

降りる音が

シウシワツキ  
siwsiwatki

びゅうびゅうと鳴る

オロワノ  
orowano

それから

V アコイキ カトウ  
V a=koyki katu

私がそいつを打った様は

V タヌシコトイ ワ  
V tan h\_uskotoy wa

以前から

ネ ロキネ ne rok h_ine	であって
V タネ アナクネ V tane anakne	今は
オアッチキリ oatcikir	片足を
アオツケ ア シラン a=otke a siran	突き刺した
ヌマハ カ numaha ka	毛も
トゥイパ アイネ tuypa ayne	切ってそして
V トウ カネ タムセブ V tu kane tamsep	幾度も金属を打つ音が <sup>[4]</sup>
ナイナタラ naynatara	響き渡った
アカン ロキネ a=kar_ rok h_ine	そうしているうち
V ヌマハ アトウイエ オケレ V numaha a=tuye okere	毛を切り終え
V オアッチキリ アトウイパ キ ナ V oatcikir a=tuypa ki na	もう片方の足も私が切るぞ <sup>[5]</sup>
オロワノ orowano	それから

アカン ロキネ そうしているうちに  
a=kar\_ rok h\_ine

オアッチキリ アトウイパ チキ 片方の足を切ったら  
oatcikir a=tuyipa ciki

V ウ テックペテレケ 翼でもって跳ね  
V u tekkupeterke

テックペチャラセ 翼ですべり  
tekkupeparse

V イケサンパ 私を追ってくる  
V i=kesanpa

V オロワノ それから  
V orowano

アカン ロキネ そうしているうちに  
a=kar\_ rok h\_ine

V ウレン テックピ 両の翼を  
V uren tekkupi

アトウイパ ヤッカ 切っても  
a=tuyipa yakka

V ホネテレケ 腹で跳ね上がり  
V honeterke

ホネチャラセ 腹ですべり  
honeparse

V イケサンパ 私を追いかける  
V i=kesanpa

オロワノ  
orowano

それから

V イキアナイネ  
V iki=an ayne

そうして

V  
V

(ここから散文)

コント  
konto

今度

ポロ レクチ  
poro rekuci

大きい首を

アトウイテクテク (ヒ) ネ  
a=tuytektek (hi)ne

私がさっと切って

ホネチャラセ  
honecarse

腹ですべり

ホネテレケ  
honeterke

腹で跳ね上がり

エピッタ  
epitta

その間中

イパレヤシカラ  
i=pareyaskar

私を嘴で突く

ペ ネ クス  
pe ne kusu

ものだから

タネ アナクネ  
tane anakne

今は

アオッシケオプ  
a=ossikeop

私の内蔵が

トゥルセ。サイ クンネ  
turse. say kunne

落ちて弧を描いて

アシトムコテ コロ  
a=sitomkote kor

体に巻きつけながら

ポロ レクチ  
poro rekuci

大きい首を

アトゥイテクテク  
a=tuytektek

私がさっと切り

オラノ アタタタタ  
orano a=tatatata

それから細切れにし

アフンパ アフンパ  
a=humpa a=humpa

刻み刻みする

ノカン カム ノチ  
nokan kam noci

細かい肉の一切れ

ルプネ カム ノチ  
rupne kam noci

大きい肉の一切れが

ウヘコテ シヌ シヌ  
uhekote sinu sinu

互いに向かってずるずる (肉が集まるので)

アチャリ チャリ  
a=cari cari

その肉をまき散らし

アチャラパ チャラパ

a=carpa carpa

バラバラにまき散らし

アタタタタ

a=tatatata

私は細かく刻んだ

アカン ロキネ

a=kar\_ rok h\_in

そうしているうちに

アタタ オケレ ヒネ

a=tata okere hine

刻み終えて

ウサ ウェンキキリ

usa wengkikir

その肉片がいろいろな悪い虫

ウサ ウェンチカプ ネ

usa wencikap ne

いろいろな悪い鳥になり

レイパ レイパ

reypa reypa

はいずってはいずって

ホブンパ ワ パイエ

hopunpa wa paye

飛んで行く

アカン ロキネ

a=kar\_ rok h\_in

そうして

アライケ ルウェ ネ アクス

a=rayke ruwe ne akusu

私がそれらを殺したところ

オラヌ ヒネ オラ オカケタ

oranu hine ora okaketa

そこに下り、それから後ほど

ヤイヌアン フミ エネ オカ ヒ。

yaynu=an humi ene oka hi.

よぎった考えはこうであった

ネイ タプ ネ  
ney tap ne

いったいどこに

イレス ポカ  
i=resu poka

人に育てられることさえ

ヤイコランペテク  
yaykorampetek

かなわなかった

クニ シリ アン ペ  
kuni siri an pe

はずであったものを

イレス サポ  
i=resu sapo

私を育てた姉

ネ アクス  
ne akusu

であったところ<sup>[6]</sup>

ネ ライ ワ アラパ  
ne ray wa arpa

その死んで行く

ホントム ワノ  
hontom wano

中ほどから

シクヌ ピト ネ  
siknu pito ne

生きた者として

シクヌ カムイ ネ  
siknu kamuy ne

生ある神として

アラパ フミ  
arpa humi

行く音が

トゥリミムセ  
turimimse

響き渡った

アナク キ コロカ  
anak ki korka

けれども

エネ イエコホピ アラパ イ アン  
ene i=ekohopi arpa h\_i an

このように私から去って行くのか [7]

セコロ ヤイヌアン  
sekor yaynu=an

と、考えながら

オラノ  
orano

それから

チサン コロ オラ  
cis=an kor ora

私は泣きながら

アウニ タ エカン ワ  
a=uni ta ek=an wa

家に戻ってきて

アナン セコロ カ  
an=an sekor ka

暮らしている、とも

ポノキクルミ  
pon\_ Okikurmi

小さいオキクルミが

イソイタク ハウエ だべし。  
isoytak hawe DABESI.

物語った、という話だべさ。

(萱野) あ〜なるほどな。

#### 【注】

[1] huri は説話に現れる怪鳥で、人を食い殺すという。この後のストーリーでは、両親が地の果てに住む悪神に殺されていたこと、その悪神が生き残った子供（主人公 pon Okikurmi）に目を付けて殺そうとし、育ての姉が戦うことが語られる。この悪神が huri だと考えられるが、一般的には巨木に住む huri と地の果ての悪神は別な神格であると考えられるなど、やや語りがつながっていないように思われる点がある。

- [2] asinuma pakno easir iyomap ki kuni p isam kuni p a=ne ruwe ne 「私ほど子供を  
慈しむものはないので」と言おうとして、表現が多少前後したものと思われる。
- [3] 前の行とつながって発音されるため n と a でナに聞こえる。
- [4] 直訳は「二つの金の刀の音が」。
- [5] 説話に現れる怪鳥の類は金属や岩でできた羽毛を身にまとっていることが多い。こ  
こでも硬い羽毛が一度では切れず、幾度も斬りつけるうちによりやく羽毛をそいで足を  
斬ることができたのである。
- [6] 「両親を失い、本来であれば誰にも育てられることがなかったはずの境遇だが、姉が  
育ててくれていたのだった」というほどの意味か。
- [7] Okikurmi を育てた姉は復活したけれども、すでに Okikurmi もじゅうぶん成長し養  
育の役割を終えたため、再会せずに神界へ帰っていくということであろう。